

サステナブル経営 | マテリアリティ

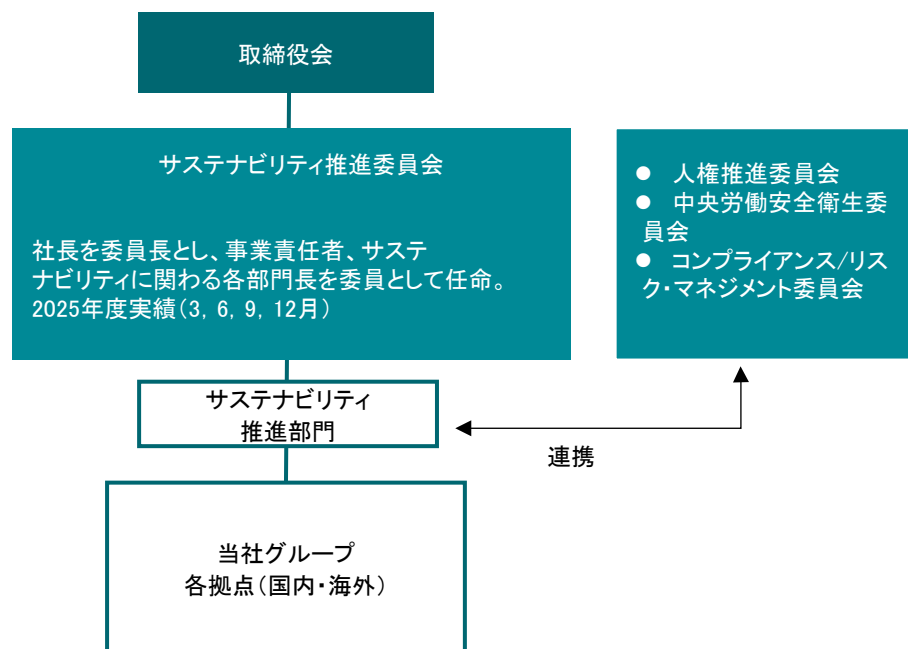
Management



■ サステナブル経営

サステナビリティ推進体制

当社グループでは、環境、エネルギーコスト、人権、サステナビリティデューデリジェンスなど社会的な諸問題の解決に向けて、全社グループの活動状況の共有、方向性の議論、決議をサステナビリティ推進委員会にて行うことで、持続可能な社会を目指しています。サステナビリティ推進委員会は、社長を委員長とし、経営戦略に関わる経営会議メンバーと経営企画本部役員を委員としています。そして、必要に応じて取締役会に付議して、承認を得ています。



主な方針・規範

方針・規範		関連ページ
基本	The GENERAL Way	P.3
環境	環境方針	P.9
社会	人権方針	P.19-20
	労働安全衛生方針	P.32
	調達方針	P.37
	グリーン調達	P.37
	サステナブル調達ガイドライン	P.38
ガバナンス	情報セキュリティポリシー	P.48

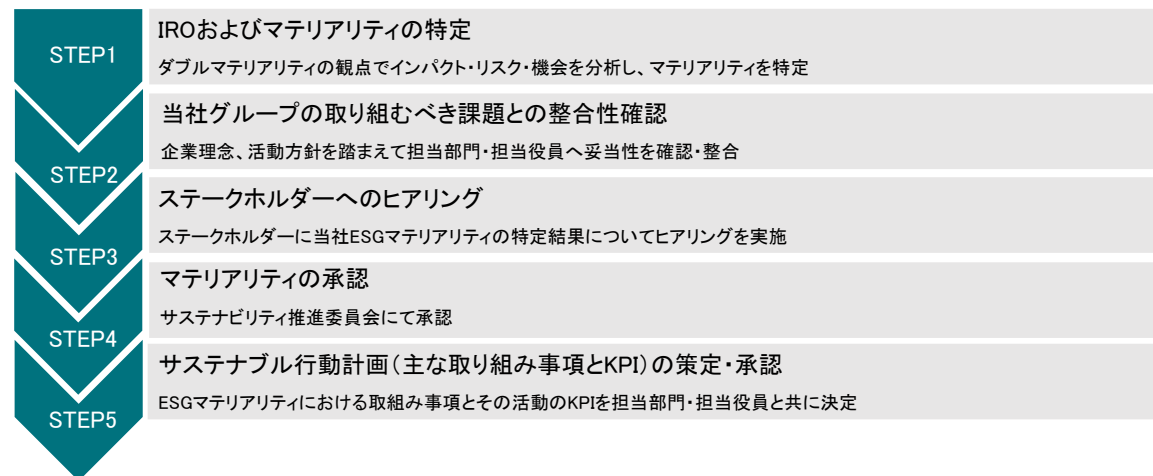
マテリアリティ

重要課題（マテリアリティ）とサステナブル行動計画

当社グループは、サステナブル経営を推進するにあたり、重要課題（マテリアリティ）を特定し、事業活動を進めています。2025年度には、欧州のCSRD（Corporate Sustainability Directive）の基準書であるESRSおよび関連する適用ガイダンスに従い、ダブルマテリアリティの観点から当社グループのマテリアリティの見直しを実施しました。

そのマテリアリティをもとに、ESGに関する行動指針とその行動の進捗を管理するための指標であるサステナブル行動計画を策定しました。

マテリアリティおよびサステナブル行動計画の特定プロセス



マテリアリティとサステナブル行動計画

ESGマテリアリティ		主な取り組み	管理指標（KPI）	25年目標値	25年実績	SDGs
気候変動	エネルギー	事業活動でのエネルギーコスト削減	生産拠点のエネルギーコスト削減（生産高当たり）	【第10期テーマ】 電力使用量の削減 GMT: 効率化推進 GMS: 生産高原単位で21年度比▲0.03% GMW: 前年比▲1.5%	GMT: 前年比▲10.6% GMS: 生産高原単位で21年度比▲14.2% GMW: 前年比▲5.5%	
		資源の利用含む資源のインフロー	資源回収	プラスチック回収物の単一化率（ミックスプラ率の低減） ※富士エコのみの指標	55.0%以上	56.0%
サーキュラーエコノミー	製品・サービス関連の資源のアウトフロー	省資源化設計の推進	冷媒充填量の削減（熱交換器の最適化）	【第10期テーマ】 中東地区における冷専インバータ化率80%	インバータ化率37%	
	廃棄物	生産時の埋立廃棄物量の削減	埋立廃棄物の削減率	【第10期テーマ】 アルミ材廃棄率: 3.26% 銅材廃棄率: 0.46%	アルミ材廃棄率: 3.10% 銅材廃棄率: 0.36%	